

# 第22回科学体験フェスティバルin徳島

## シーズアートマグネットを作ろう

### (植物の種でマグネットにデコレーションをする) 出展報告

蔵本技術部門 研究開発支援グループ

堀川 秀昌 (Hideaki Horikawa)  
今林 潔 (Kiyoshi Imabayashi)  
矢野 雅司 (Masashi Yano)  
多田 竜 (Ryu Tada)

桑原 義典 (Yoshinori Kuwahara)  
武市 浩美 (Hiromi Takeichi)  
赤澤 恵実子 (Emiko Akazawa)

#### 1. はじめに

我々の研究開発支援グループは、徳島大学理工学部主催の「第22回科学体験フェスティバルin徳島<sup>[1]</sup>」にブースを出展したので、以下に内容を報告する。

#### 2. 開催概要

日時：平成30年8月4日(土)、5日(日)

10:00～16:00

場所：徳島大学常三島キャンパス

主催：徳島大学理工学部

共催：(株)阿波銀行、四国電力(株)徳島支店

来場者数：約9000人

出展ブース体験者数：124人(8月4日)

151人(8月5日)

#### 3. 出展ブースについて

出展テーマ：シーズアートマグネットを作ろう(植物の種でマグネットにデコレーションをする)

ねらい：徳島大学薬学部附属薬用植物園で栽培している薬草や種子に興味を持っていたき、薬用植物を身近に感じてもらう。

対象学年：制限なし(幼児の場合は保護者同伴)

体験手順：種\*の配置を考える→マグネット全体にボンドを塗る→ピンセットを用いてマグネット上に種を置いていく→よく乾燥させる

体験時間：30分程度

整理券配布数：100枚/1日(4回に分けて配布「10:00, 11:15, 13:30, 14:45」)

\*使用した種は10種類(インドアイ, エ

ビスグサ, キカラスウリ, ゲットウ, ナツメ, ハトムギ, ハマゴウ, ハマナツメ, フジ, ホソバタイセイ)(図1)



図1 体験に使用した種

実施状況：開始早々、予想を上回る希望者が殺到し、体験者で大いに賑わった(図2)。対応できるスタッフの数が限られるため、整理券方式をとった。早く体験が終わった方の後の隙間時間を見つけて、可能な限り追加の体験者を受け入れた。マグネットにボンドを塗る作業は、希望者にはスタッフが対応するようにした。完成した作品は、乾燥させるための台に置いてもらい(図3)、帰る際に引き取りに来ていただくようにすることで、再度子供達とコミュニケーションを取ることでもできた。薬用植物を身近に感じていただくため、会場には、展示コーナーやビデオコーナーを設けており、体験できなかった方にも観覧していただいた。体験に使用した植物やそれ以外の珍しい植物も飾り、癒しの場を提供した。



図2 体験の様子

興味を持っていただいた方には、本学薬用植物園の紹介を行い、後日開催される薬用植物園一般開放の案内をした。



図3 完成作品

#### 4. アンケート結果

アンケートを用意し、体験者のうち、140人から回収できたので、その結果をグラフに示した(図4)。

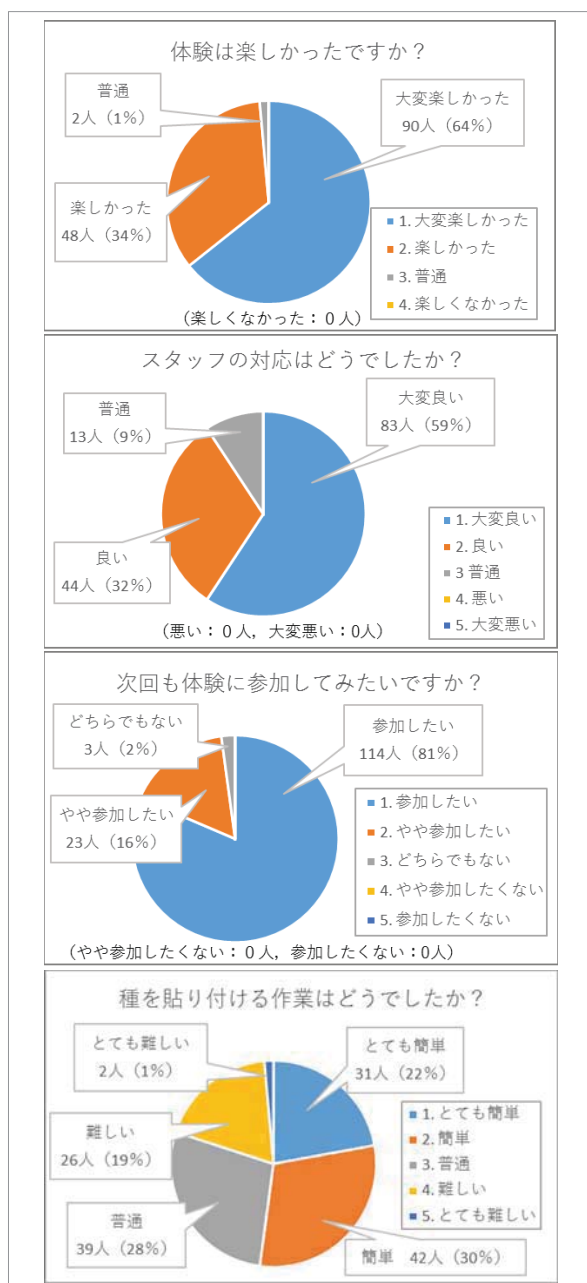


図4 アンケート結果1

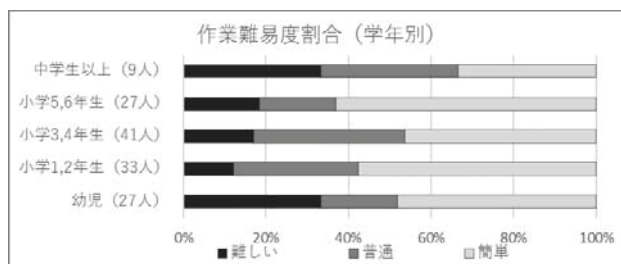


図5 アンケート結果2

子供達は楽しんでいただけたのか、と気になっていた点であったが、98%の方から楽しかったとの回答をいただいた。作業の難易度は興味深い結果となり、年代別に集計すると、高学年になるにつれて、難しいと感じる割合が多くなった(図5)。自分自身で課題を見つけ、それに挑戦している感じがうかがえた。

#### 5. さいごに

技術支援部が発足し、技術職員は、今までの業務に加えて、技術支援部組織としての運營業務も遂行していく必要がある。出展するにあたり、どれほど効率よくアウトプット(成果物)を生み出せるのかというテーマを持ち、「最小の労力」で、いかに子供達に「最大の満足」を得ていただけるかを意識して、準備段階から取り組んだ。準備で必要とした労力は、事前の打ち合わせ3回、代表者会議1回、手順書や掲示ポスターの作成、使用する種の準備、ボンドやマグネットの買い出し等であった。これらのほとんどは、仕事の合間時間を利用して行うことができ、本業務に影響がでない範囲内で可能であった。体験の作業内容としては、マグネットに種を貼り付けるという単純作業であったが、創意工夫することで子供達に喜んでいただき地域貢献ができることを実感できた。

#### 謝辞

本出展ブースの運営にご協力いただきました「科学体験フェスティバルin徳島」実行委員会の皆様に深謝いたします。

#### 参考文献

[1] 「第22回科学体験フェスティバルin徳島」ガイドブック、「科学体験フェスティバルin徳島」実行委員会、2018